

上越市租税教育推進協議会長賞

恩返し

上越市立板倉中学校 三年

笠原 花心

四月に亡くなった祖父は、二年前に突然息苦しさを訴え、特発性間質性肺炎と診断された。それまでの祖父は仕事もし、春から秋は草取りや庭の手入れ、冬になると除雪と朝から晩まで元気に働いていたのでとても信じられなかった。

特発性間質性肺炎は、原因がわからず治療法も確立していない厚生労働省が指定した指定難病である。現在の医療では病気の進行を緩やかにする治療と症状を和らげる対処療法しかないと知ったとき私達家族は皆言葉を失うほどショックを受けた。一番ショックを受けたのは祖父本人のはずだが、そんな顔は一切見せることなく

「じーちゃん、頑張るわ。」

明るく笑う祖父はとても強く、逆に私たちが励まされるほどであった。祖母は祖父にこの病気がわかった時、医療費や仕事ができなくなった時の生活費など、経済的な不安や心配を口にしては落ち込んでいた。しかし、社会保障制度によって医療費が軽減されると知り、祖母は胸をなでおろしたようだ。その制度の一つが「難病医療助成制度」である。

この制度は指定難病患者の医療費負担を軽減することを目的とし、

その治療に関わる医療費が助成される制度である。患者は自己負担割合が軽減され、所得に応じ上限額が定められているため一定以上の費用はかからない。

その他にも、病状が進行するにしたがい、「身体障害者手帳」が付され、福祉サービスを受けることもできた。また「介護保険制度」で、ケアマネージャーさんをはじめ、ヘルパーさんや訪問診療、訪問看護、訪問入浴などたくさんさんの介護サービスを受けられた。

おかげで、祖父は病状が進行しても安心して在宅で過ごすことができた。最後まで家で過ごしたいという祖父の願いがかなえられたのも、これらすべての社会福祉制度のおかげである。これらの社会保障制度は税金で補われているということを知り、たくさんの方々が納税した税金で支えられて、私たちは祖父と過ごすことができた。感謝の気持ちでいっぱいになった。

病気になることはとても悲しいことであるが、それは誰の身にも突然やってくる。今後少子高齢化が進むにつれ、ますます社会保障制度を維持していくことも困難になっていくだろう。それでも、治療が必要な人が安心して適切な治療が受けられるよう社会保障制度をいつまでも維持していかなければならないと感じている。

私も将来社会人になったら、納税者になる。きちんと納税して、この感謝の気持ちを恩返しできるような大人になろうと思う。

「じーちゃん、私も頑張るわ。」